

東京民医連

新潟中越地震支援ニュース

2004年11月2日

No. 9

発行：東京民医連

新潟中越地震対策本部

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

【10/27～10/30まで現地支援に入ったほくとからの参加者による活動の報告】

写真の施設はながおか生協診療所の通常はリハビリに使用されている場所です。部屋の端から端まで今回の地震による被災者がこの部屋だけで40名以上収容されていました。地元組合員さんの声では、避難指定のある学校へ行くよりも診療所へ避難した方が安心という声も聞かれるほど診療所は地域の信頼を受けていることが実感されました。ほくと支援活動の最初の仕事はこの部屋の患者さんへの声かけでした。



《さらに医局ニュースで春田医師から詳しい報告がされています》

2004.10.28 0:29

こんばんは。今日は涙×3の出発をしていったん東京民医連にいき、健生病院と大田病院の人と合流して今後の予定を聞きました。今日は被災地近くまで行き、明日の朝に長岡の診療所にいき支援をしていくそうです。体育館にいる人は、物資などはあるようですが集団生活でのストレスによる不調、家にいる人は物資がうまく渡ってなかったりとそれぞれの問題があるようです。子どもたちも暗くなると家に居ることが不安になり外で寝るようなこともあるみたいです。今日は寒いので大丈夫ですかね？とりあえず今日はひとまず赤城高原で車中泊です。明日もあるのでこの辺で。H

こんなメールをくれたH先生。28日の夕方には電話で支援の状況、現地の様子を伝えてくれました。（「メールだと長くて打ち切れないので…」とっていました）

以下に電話の内容を記します。

- 5:00 赤城高原を出発
- 8:00 ながおか生協診療所に到着
- 9:00 支援スタッフの打ち合わせ（東京以外に石川・北海道・長野からも支援あり）

→ 支援開始

ながおか生協診療所のリハ室は、近隣の被災者の方々に仮避難所として開放しています。そこには30人近く避難されていて、多くが高齢者の方です。片麻痺の方が多いようです。午前中は油座副総師長と一緒にその方たちの診察に当たりました。訴えの多くは「眠れない」「便秘」でした。パーキンソン病や脳梗塞の既往のある方もいらっしゃいますが、今のところ定期の薬は心配がなさそうです。一方、かかりつけの病院まで行けず薬が切れてしまったという高血圧の方は測ってみると、上が220！心配になり診療所の職員に相談すると、「医師会からの通達で支援に行っているスタッフが薬を処方する事はできない事になっていて、必要に応じて(患者さんからの希望も聞いて)診療所に改めて受診し処方してもらうしか方法はない」と言われたそうです。

- 12:00 昼食（炊き出しのクリームシチューとパンを食べました。）

ライフラインの状況は同じ長岡でも地域によって差があるようですが、診療所は電気も水道も使えています。避難所となっている体育館では炊き出しで温かいものが出ないため、避難されている方もストレスがたまっているようです。

昼食後、各チームの支援状況、行った先の様子などを報告しあいました。「血压は平常より高い人が多い」「薬が出せないの、目薬や便秘の訴えに応えられない」といった報告がされました。

→ 支援開始

近くの避難所(体育館)に行きました。体育館の周りには、崩壊した家や潰れた車などが見えました。晴れていたため40代くらいまでの若い方達は家に戻り片付けをされており、体育館には高齢者や子供が多く見受けられました。

保健室を仮診療所のようにしてそこで診察をしたり、体育館の中で話し相手になったり(おもに愚痴聞き)しました。みんな血压が気になっているようです。脳梗塞の方が入り口で転倒し、救急車で中央病院に運ばれるという事がありました。中央病院のベッドはいっぱいで、肺炎の疑いがある方でも大抵の場合は抗生剤を処方され避難所に帰ってきているようです。風邪の引きはじめという方も多くなっています。

OTC(=市販薬)が届けられたので、体育館の人に配って歩きました。しかし、湿布や風邪薬などはあっても、便秘薬がありません。一方、同じ体育館に帝京大学付属病院からの医療チーム(救急・内科・外科Dr各1名+看護師)も来ており、なぜかそっちは持参した薬を渡していました。「同じ事(医療支援)をしているはずなのに、なぜ向こうは市販薬以外も出せるのに、自分達は持ってきた“カマ(=便秘薬)”すら渡せないんだろう?」と思いながらも、その帝京のDrと話すと、便秘薬を分けてくれて、また体育館の人に配って回りました。

15時ごろ地面が「ドーン」という音を立てるような地震が一度ありました。体育館には100人くらい避難されているのに、簡易トイレが入り口に2~3個あるだけです。足腰の弱い方が間に合わず失禁してしまったり、とても不便そうです。

電話をくれたのが17時ごろ。「この後の予定は?」と聞くと、「今は休憩中です。今後はまだ指示がないのでわかりません。」とっていました。「とりあえず2日目の状況はこんな感じです。また連絡します。」と言って電話は切れました。夜も支援に動き回ったのでしょうか・・・?

【11/2支援に入った折笠さんからの活動報告】

午前、3人で長岡の山の方の半壊の家を訪問。「もう住めないから家を解体する」とのことで、電動ベッドを譲り受け、1人暮らしのおじいちゃんのアパートへ運びました。部屋の中は、電子レンジもころがったまま。動けないから片付けもできない状況でした。ベッドを組み立て終わると、おじいちゃんがにっこり笑って喜んでくれたのがとってもうれしかった。慣れない仕事で疲れたけれど、やったかいがありました。午後は、生協組合員さんのお宅を訪問。20軒の人と対話ができました。「何でもその場で頼まれたことをやってくること」の打ち合わせどおりに、「崩れかけた壁を何とかして欲しい」の依頼に3人で崩れないように応急措置をしてみました。

立川相互病院のT医師とH医師は、山奥のビニールテントに非難している人たちを訪問しました。半壊の家や崩れた道路の中の支援は大変でしたが、とても喜ばれました。

今日付けで今後の方針⑤が通達されています。

11/1~11/14までの支援方針

1. 医療支援活動は本日を持って終了とします。

・現地より、状況の変化などあり、再度の要請があれば県連として検討して各法人に要請いたします。

2. ボランティア活動は11/14(日)まで取り組みます。

ボランティア活動内容は、災害復興支援・組合員、住民の地域訪問を行い、家の片付け手伝い・被災した方々が自宅に帰れる支援を行います。まだ余震が続いている地域では被災者が自宅に戻れない状況です。地域別要求の違いや、余震の有無などによりボランティア派遣先と内容が変更になります。現地本部の指示に従ってください。

3. 物資の支援について

物資支援については一部で充足との情報もあります。現地対策本部に確認のうえ、宅急便をご利用ください。

4. 新潟中越地震募金は引き続き集めます。

5. その他

現地の状況に新たな変化があった場合は、再度全日本民医連の方針に沿い、活動を提起します。

“困難あるところに民医連あり”ともにがんばりましょう